Figure Extreme

Active Inter Communication Sytem

取 扱 説 明 書

（レンタル機材版）

Version 1.00　March, 2005

COMNET Corporation
株式会社 コムネット

概 要

この説明書は Figure Extreme プロダクツシリーズの一つである Active Inter Communication System（以下インカム）に関して説明したものです。正しく使用していただくことにより最高の性能を発揮するようになっておりますので、この説明書を良くお読みいただいてから、ご使用ください。

システムの内容

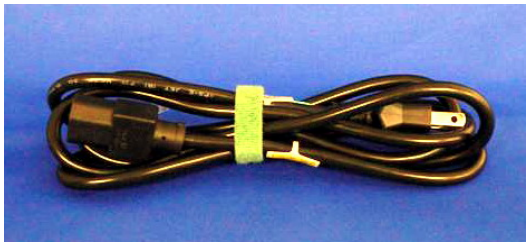
レンタル機材としてのこのシステムに含まれている機材は以下のとおりです。事前にご確認ください。

1）専用トランクケース× 1
2）取扱説明書 × 1
3）インカム親機 × 1
4）インカム子機 × 5
5）高性能ヘッドセット × 3
6）軽量イヤーセット × 6
7）電源ケーブル × 1
8）接続ケーブル × 7
9）延長アダプタケーブル × 2

※ ご返却時に破損や滅失がある場合には、実費をご請求させていただきます。特にヘッドセットケーブルを結束しているリングを紛失しないようにお願いいたします。

ケーブルなどの概観

1）電源ケーブル



2）接続ケーブル（右）と
延長アダプタケーブル（左）

3）高性能ヘッドセット（左）と軽量イヤーセット（右）

※ 片耳タイプの場合には、スピーカーは通常左耳にセットしてください。

親機の機器の各部の名称と機能

1）親機正面パネルに関して

① 電源スイッチ
押すと電源が入りグリーンに点灯します。もう一度押すと電源が切れます。機器の接続時には、電源を切った状態で行ってください。電源が入った状態で接続などを行うと、ヘッドセットから大きな音がして、鼓膜を傷める危険性があります。

② トークスイッチ
このランプが点灯しているときには、親機に接続したマイクがオンの状態になり、話した内容がすべての機器に伝達されます。押すたびにオンオフが切り替わります。

③ ジャッジラインへのトークスイッチ
このランプが点灯しているときには、ジャッジラインに接続された子機に、話した内容が伝達されます。テクニカルオフィシャル間の内容をジャッジに伝達したくない場合には、このスイッチをオフにします。逆に伝達したい場合にはオンにします。

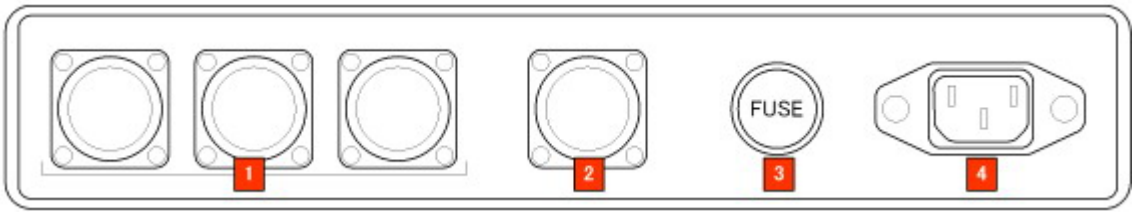
④ サイドトーンボリューム
サイドトーンとは自分が喋った内容が自分自身に聞こえるという意味です。自分自身の音声の聞こえ方をこのボリュームで調整します。

⑤ ボリューム
他の人が喋った内容の音量を調整するボリュームです。適切に聞こえるように調整してください。

⑥ マイク接続ジャック
ヘッドセットなどのマイク側プラグを接続するジャックです。

⑦ スピーカー接続ジャック
ヘッドセットなどのスピーカー側プラグを接続するジャックです。

2）親機背面パネルに関して



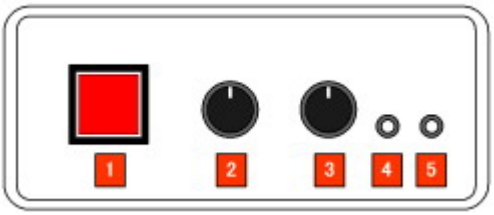
① テクニカルオフィシャル側接続コネクタ
テクニカルオフィシャル側の子機を接続します。もちろん一つのコネクタからカスケード（数珠つなぎ）接続をすることも可能です。

② ジャッジ側接続コネクタ
ジャッジの側の子機を接続します。ジャッジ子機同士はカスケード接続します。ここへ接続された子機へのテクニカルオフィシャル側の音声は正面パネル③の『ジャッジラインへのトークスイッチ』で制御されます。

③ ヒューズ
安全用のヒューズです。ヒューズが切れた場合には原因を調査のうえ、正しい容量のヒューズに交換してください。

④ 電源ケーブル接続コネクタ
付属の電源ケーブルを接続してください。

3）子機の正面パネルに関して



① トークスイッチ
このランプが点灯しているときには、この子機に接続したマイクがオンの状態になり、話した内容がすべての機器に伝達されます。押すたびにオンオフが切り替わります。

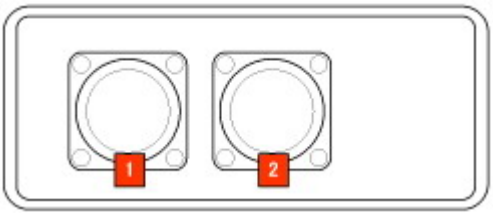
② サイドトーンボリューム
サイドトーンとは自分が喋った内容が自分自身に聞こえるという意味です。自分自身の音声の聞こえ方をこのボリュームで調整します。

③ ボリューム
他の人が喋った内容の音量を調整するボリュームです。適切に聞こえるように調整してください。

④ マイク接続ジャック
ヘッドセットなどのマイク側プラグを接続するジャックです。

⑤ スピーカー接続ジャック
ヘッドセットなどのスピーカー側プラグを接続するジャックです。

4）子機の背面パネルに関して

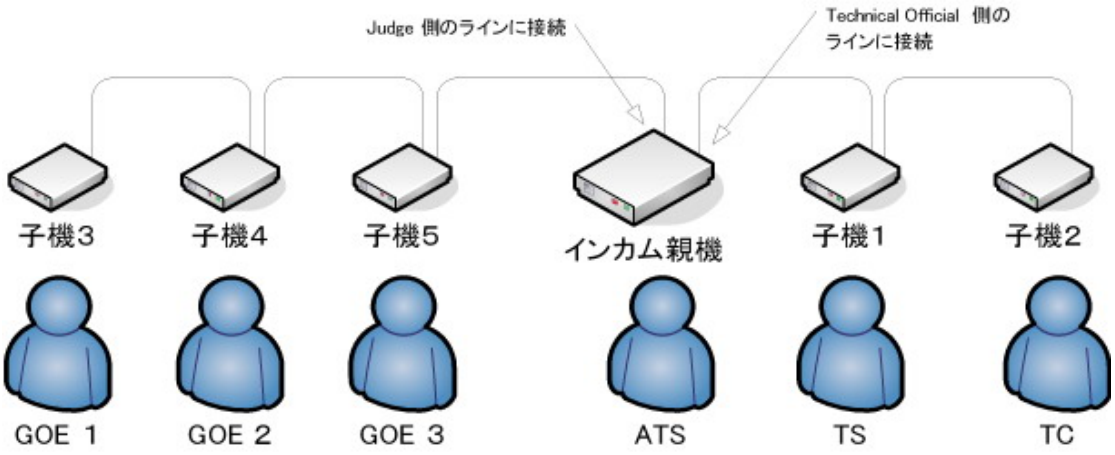


① 入力側コネクタ
親機側からのケーブルを接続します。

② 出力側コネクタ
次の子機へのケーブルを接続します。

※この２つのコネクタを使用して、カスケード接続を行います。

接続例



上の図は、テクニカルオフィシャル３名とＧＯＥジャッジ３名の場合の接続例で、ＡＴＳがＧＯＥジャッジに決定した要素を通達すると担務であると仮定しています。以下は接続の要点をまとめたものです。

１）ＡＴＳの前に親機を、他の役員・ジャッジの前に子機を設置します。
２）各機器を図のように接続します。接続ケーブル一本では足りない場合には、延長アダプタケーブルを挟んで、二本以上のケーブルを接続することができます。
３）それぞれの機器にヘッドセットまたはイヤーセットを接続します。この時、マイク側とスピーカー側を間違えないように注意してください。通常のヘッドセットであれば、マイク側がピンクのプラグ、スピーカー側がグリーンまたはブラック、グレーのプラグになっていて、プラグにはイラストが書かれているので、それで判断してください。
４）最後に親機に電源ケーブルを接続し、通常のコンセントに接続します。

次に各機能の調整方法を説明します。複数のスタッフで行ってください。

１）インカム親機から各子機への通話状態を確認し、必要ならトークバック、ボリュームで音量などを調整してください。この場合、ジャッジトークスイッチはオンの状態で確認してください。
２）次に子機間の通話を確認してください。
３）親機のジャッジトークスイッチをオフにして、テクニカルオフィシャル間の通話がジャッジ側子機に伝達されないことを確認してください。この場合でもジャッジ子機側の通話内容はテクニカルオフィシャル側には伝達されます。これは仕様です。

以上でテストは完了です。

上手な使用方法

以下に上手な使用方法をご説明します。このインカムは、フィギュアスケートの競技会で音楽が鳴らされていることを前提に設計され調整されています。使い方を誤ると十分な性能を発揮することができませんので、ご注意ください。

1）高性能ヘッドセットのマイクをあまり口に近づけすぎると、音声が割れることがあります。適度な距離を置いてください。

2）ジャッジ側のトークスイッチは通常オフ状態で使用し、ジャッジが喋るときだけオンにするように説明してください。さもないとすべてのマイクで音楽を拾ってしまうので、音声が聞き取りにくくなります。

3）逆にテクニカルオフィシャル側は通常オンの状態にしておきます。こうすることによって、ヘッドセット越しの通話に早くなれることができます。また咳払いをしたり、関係のない会話の場合にはオフにするようにしましょう。

4）自分の声が聞こえにくいとか、大きすぎるとか言われたときには、自分の子機のボリュームを調整しても何も変わりません。相手のボリュームを調整してもらうか、自分のマイクの位置や喋る声の大きさを変えてみてください。

ヘッドセットやイヤーセットの規格について

自分専用のものを用意なさる場合もあると思いますが、以下の規格である必要がありますのでご注意ください。また規格内であっても性能などの差により性能が発揮できないことも十分考えられます。

1）共通規格
- ① 端子形状：３.５φ
- ② 用途：パソコン用

2）マイク部の規格
- ① 規格：コンデンサーマイク
- ② 指向性は不問

3）スピーカ部の規格
- ① 規格：ダイナミック
- ② インピーダンス：３２Ω

※ マイクスイッチやスピーカーボリュームなどが付属したものがありますが、その場合には、どちらもオンの状態でご使用ください。

故障と判断する前に

1）相手の声が聞こえない
- ① 自分の子機のボリュームは適切な位置ですか？
- ② 相手側のトークスイッチやマイクスイッチはオンの状態ですか？
- ③ 接続に問題はありませんか？

2）相手の声が小さいか、逆に割れてしまう
- ① 自分の子機のボリュームは適切な位置ですか？
- ② 相手側のマイクの位置は適切ですか？

3）トークスイッチを押してもスイッチが赤くならない
- ① 接続に問題はありませんか？
- ② 親機の電源はオンになっていますか？